



## はじめに

委員長 河内美代子

いつのまにか第2号をお届けする時期となり、月日の流れの速さをわが身と重ね愁いております。

第1号は初めてのヴァージョンアップで、みなさんにお伝えしたい記事を全部載せたいという気持ちが先に立ち、ボリュームも大きくなり過ぎたかなと少々反省。今回はスタッフも増え、充実の第2号と行きたいのですがどんな仕上がりになることや、出来上がるまで？です。でも発行の思いは一つ、「会員の双方向の情報交換の場」として活用されることです。

また、女性委員会メーリングリストも現在参加者が24名となり、情報も第69号までできました。

3ヶ月に一度のお便りと違い、リアルタイムな情報伝達ができます。メールアドレスをお持ちの方は是非、参加ください。参加方法等は斜め右下の記事メーリングリストを読んでください。

なお、このお便りに関してお気づきの点、ご意見等御座いましたら、どしどし編集に参加してください(参加連絡先は末尾にあります)。

## 今回の記事

- 今後の予定 ◆研修会のお知らせ
- ◆第1回女性委員会のつどいについて
- ◆メーリングリスト

### ■第44回建築士会全国大会の報告

- ◆全国大会(宮城大会)の参加報告
- ◆フォーラムⅣ「情報化時代の羅針盤」参加報告書
- ◆フォーラムⅢ・心をつむぐ未来の暮らしに参加して

### ■薬師寺見学会・研修会報告

- 樹木の話 ◆緑化整備計画
- ◆病害虫について

### ■建築ひとくちメモ

- 雑談◆建具師の作品！こんな行燈すてきでしょう？
- ◆美味しいお店の話

### ■編集後記

### ■添付資料及び参加案内(出欠表)

- ◆研修会のご案内
- ◆「女性建築士の集い」のご案内
- ◆大気環境木のすすめ(リーフレット)
- ◆建築基準法に基づく採光規定の取扱い(名古屋市の見解)

## ■今後の予定

### ◆研修会のお知らせ

日時：12月1日(土) PM2時～4時

場所：県民未来会館

テーマ：住宅設計—二つの視点

講師：丸谷 博男氏

詳細は別添案内を参照ください。

### ◆第1回女性建築士のつどいについて…。

日時：1月19日(土) PM0時～5時

場所：中部電力ショールーム

(趣旨) 前回ご案内させていただいた当初の予定より大幅に遅れ、クリスマス会というよりは新年会に近い設定となりましたが、とにかく建築にたずさわる全女性技術者の集まる会を持つことにより、女性同士の交流を図りたいという目的で開催するものです。建築士会に現在加入していらっしゃらない方もお誘いし、これを機会に参加も呼びかけたいと思います。

みなさん、是非、万障繰り合わせてご参加下さい。フルコース参加が難しい場合は参加できる時間帯だけでも勿論OKですので、どうぞご参加ください。

なお、詳細は別添案内を参照ください。

## ■メーリングリスト

前回のお便りにも紹介しましたが、メーリングリスト(ML)を活用することにより随時双方向の情報交換ができます。1人でも多くの方にご参加いただければと思います。メールのことがよくわからない方は濱本さんがわかる範囲内ならアドバイスOKとのこと

連絡先 TEL0584-64-6208

[kaohama@basil.freemail.ne.jp](mailto:kaohama@basil.freemail.ne.jp)



メーリングリスト(ML)参加申込はこちらへ

住所、氏名、アドレス記入の上、担当：榎本まで  
[yandm.masumoto@nifty.ne.jp](mailto:yandm.masumoto@nifty.ne.jp)  
 TEL 0584-82-8667



■ 第44回建築士会全国大会の報告

◆ 全国大会(宮城大会)の参加報告

10月5日(金)の朝9時から全体の開会式が行われた後、「まじやら in 宮城」と題した4つのフォーラムで構成されたプログラムでスタートしました。

フォーラム I 「参加のプログラム・地域ネットワークの創造」

フォーラム II 「大海へのりだす建築士の挑戦」

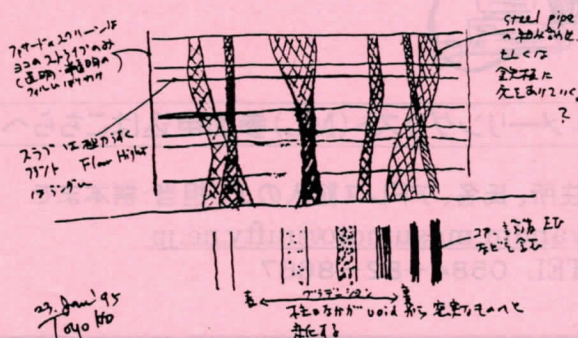
フォーラム III 「提案・心をつむぐ未来の暮らし」

フォーラム IV 「情報化時代の羅針盤」

このうち宮城県的女性委員会が企画したフォーラム III には、例年と異なり男性の姿も多く、運営・参加も「女性」という枠にとらわれない形でした。平成 7 年の青森大会から始まった女性委員会主体のフォーラムが6年の年月を経て、ようやく普通の形になったという印象を受けました。これに向けて努力された方々のご苦労を察するとともに宮城士会の女性パワーのすごさ(安井妙子女史の存在もさることながら宮城士会女性部会では一泊旅行なども実施されており、ラインダンスなどの余興もあって盛り上がりがすごいです)も感じました。

また、イベントの行われていたメディアテーク(伊東豊雄建築設計事務所設計)では「メディアテークのひみつーとらのまき」と題したリーフレットを宮城士会が作成してくれていたおかげで各階の構成や仕掛けがよくわかり、話題の仙台市民ご自慢(利用者も多かった)の建物を楽しく見学できました。

このリーフレットによれば、せんだいメディアテークは「見えることを」大切にした建物で、鉄板2枚でできた薄い板「プレート」、そのプレートをつらぬいて支える鉄のパイプでできた柱「チューブ」、薄い皮膚のようなガラスでできた壁「スキン」の3つからできており、外から見ても中で何が行われているかわかるように考えられているのが特徴だそうです。また、フロア毎にイメージが変わり、ソファなどにも各フロアのデザインコンセプトが打ち出されていました。(河内美代子)



◆ フォーラム IV 「情報化時代の羅針盤」参加報告書

私は、「情報化時代の羅針盤」というフォーラム IV に参加しました。ステージ1ではネットアラカルト・ホームページ活用術・ABA-NETの紹介が行われ、ネットアラカルトでは、鳥取県建築士会の「よね子さんの住宅事情」と言うパソコンを使った紙芝居で「初級介護講座」の「高齢者の住まいについて」わかりやすく説明したものの等、3作品が紹介されました。

ホームページ活用術では、高齢者・障害者対応のトイレや駐車場等の情報をホームページで情報発信して、こうした方の外出時の手助けに利用して戴いたというものです。「レモンちゃんの休日」

URL: <http://www.fukushimap.org/index2.htm>

ネットアラカルト作品3では、建設CALIS/EC電子形式対応 CAD JWB2001 が紹介されました。これは、フリーソフトの JW-CAD のデータを直接 建設CALIS/ECのデータ形式に変換できるもので、SXF 仕様のレベル分けで現在もっとも進んでいるレベル 2 に対応しているものです。(レベル4まである)「JWB Fun Club ホームページ」で公開されているので覗いてみて下さい。URL: <http://member.nifty.ne.jp/KCF/JWB2000/>

ステージ2では、ネットワークとパネルディスカッションが開催されました。芝浦工業大学助教授の衣袋洋一氏から「進化するCAD・DAD (Digital-Tool Aided Design)」製図道具から「創る」「交流」の道具へで講演いただきました。

CADは、ただ単に図面を作る製図道具から、インターを利用したサーバーを使う事により、お互いのデータ等の蓄積によるデータベース、その情報交換による交流の場として利用できるとの事でした。先生も数年前まではアナログ人間だったそうで、まさかこんなデジタル人間になるとは思いもよらなかったそうです。楽しいお話でした。

また、「CADの未来とCALIS/ECの将来」について元CADデータ交換標準開発コンソーシアム運営委員木原範昭氏から CALIS/EC 推進のための、CAD データ交換標準についての現状を説明して頂きました。

この後、日本建築士会連合会情報部会長の後藤伸一氏をコーディネーターに、衣袋洋一氏、木原範昭氏とNTT 東日本技術担当の方をお招きして、パネルディスカッションが開催されました。

(榎本佳子)



菊地家住宅 国登録有形文化財

## ◆フォーラムⅢ・心をつむぐ未来のくらしに参加して

戦後の高度経済成長の一端を担ってきた スクラップアンドビルドの建設産業サイクルにより、住宅が平均 25 年で建て替えられ、住まいやまちの歴史的環境資源を失いつつある。

フォーラムⅢでは、宮城県各地に残る古民家やそこで営まれている暮らしから 21 世紀のくらしの方向を学べるのではという仮設の元に、午前中に、実際に暮らしておられる古民家(登録文化財)を見学させて戴き、午後はシンポジウムで古民家再生の過程紹介や、再生計画のシミュレーション紹介などを通し、未来を担う子供達へ住まいやまちに対する誇りや愛着をいかに伝えるか、また健康的でサステイナブルな地域の生活文化を育む居住環境づくりの為の建築士の責任と役割を探った。

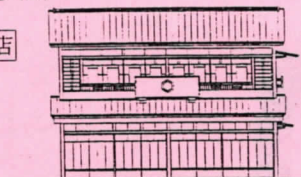
見学をさせて戴いた建物は 3 箇所に分散していた。あいにくの雨天であったが、バスを利用して車窓からの市内見学も兼ねて回った。(以下概要)

**庄子屋醤油店:**昭和 11 年に火災で全焼後に建て直された。外観は図 1 参照。その他詳細は省くが、正面 1 階にアルミサッシが付いているぐらいで全体に改造が少なく昨年 12 月に国の登録有形文化財に登録された。

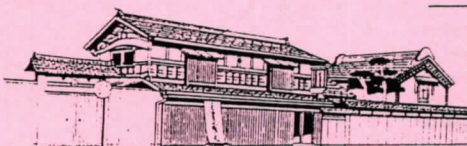
**天賞酒造:**元の店部分を事務所として使用するなどしているが、通りに面した 80m に及ぶ黒いシックな板塀は八幡町の歴史的風情を演出している。建築年代は構造様式から明治中期～後期の建物と推定され、酒蔵は石蔵でその他土蔵と杜氏の住宅部分から構成される。平成 4 年仙台市の都市景観賞・歴史文化部門受賞。図 2 参照

**菊地家住宅:**元は茅葺きだった屋根を鉄板葺きの現在の形に改修されたものを、菊地氏が「家が住んでくれと言っていた」と 14 年前に購入され、内部を過ごしやすくするために少し改造しただけで大切に住んでおられる。茅葺の隠居所や二重張りの板倉、そして土蔵は当時のまま残されたり、利用されたりしている。国の登録有形文化財。(写真参照)

庄子屋醤油店



正面図 S=1/200



天賞酒造



午後からのシンポジウムでは まず廃屋同然(スライドを見せてもらいましたが…家の中が竹藪化していました)の木村邸の再生のいきさつとその過程を建主である木村さんと実際に改修を手がけられた安井さんにより説明があった。つづいてと天賞酒造と庄子屋醤油店のある八幡町の子供を参加させたまちづくりの活動紹介、庄子屋醤油店で行われた文化財シンポジウムの紹介と宮城県各地の古民家の調査報告を宮城建築士会の女性部会の方がされた。そして、築 200 年の民家に現在も住み、これからも住み続けようとしておられる士会員の鈴木さんのこだわりが語られ、それを基に快適に住みつづけるための改造シミュレーションが女性部会から発表された。

木村邸は完成後に親族がよく集まるようになり、特に小学生の孫達が好んで建主の今まで住んでいた住宅より改修後の昔の家屋に泊りたがるという話や、鈴木さんの孫がずっとこの家が良いと言っている話は、子供達に古民家の良さや暮らし方がしっかりと伝わっていることの表れであろう。

また、庄子屋醤油店の息子さんが、以前はとても大人しい方であったが、店が国の登録有形文化財に登録されて、文化財シンポジウムの開催やご商売に積極的になられたという話は家が人の生活に大きな影響を与えているといえる。

最後に、連合会女性委員会副委員長の奈良県建築士会の岡田さんから、奈良県での登録文化財の聞き取り調査の話があったが、なかなか理解をして頂き良い建物を残してゆくことが難しいことであるのが現実のようである。しかし、中には「こんな制度を待っていた」と喜んで登録を承諾され、「早く登録をしてくれ。」とせかされた例もあるという。この方は父親が画家でそのアトリエのある自宅が大変御自慢のようで、文化財登録後に自宅をバックに写された写真は満面の笑みを浮かべていらした。このように喜んで残して下さる建物を造ること残すことに関われる事は、私達建築士の喜びでもある。(小林 教子)

**文化財登録制度** 建築後 50 年を経過した建造物で、広く親しまれていたり、そこでしか見られない珍しい形をしているものを文化財として国(文化庁)に登録し、それを資産として生かすことを支援する制度。(ヨーロッパをはじめとする世界各国ですでに定着し、文化財保存に大きな役割を果たしている。)さまざまな優遇措置を受けられる。基準国土の歴史的景観に寄与している造形の規範となっている再現することが容易でない



## ■ 薬師寺見学会・研修会報告

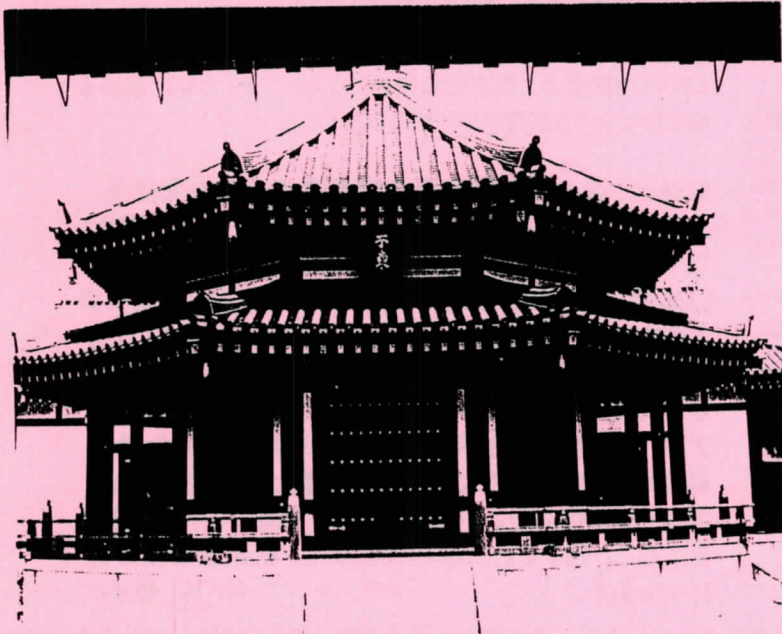
去る9月7日に奈良薬師寺にバスを借り切り、総勢22名で見学に行ってきました。

朝から生憎の雨でしたが、薬師寺の境内以外はバスの移動で問題なくスケジュールは進みました。行きのバスの車内では御世話をいただいた日本インシュレーション株式会社の顧問兼各務原市の書道協会会長の高橋さん(今回の平山郁夫画伯の絵が納められている建物の壁材もこちらの会社のものです。)の説明と御用意いただいたビデオで薬師寺の事や玄奘三蔵法師の事を事前に学習しました。

薬師寺では、岐阜別院住職でもあり薬師寺副執事長でもある村上さんのありがたい説法や想像していたお坊さんのイメージを払拭する様な楽しい説明を聞きながら見学する事ができました。復元中の大講堂はすっぽり養生に覆われ足場がしっかりと造られていた為、大屋根を手にとるように間近に見る事ができ、池田建設工事事務所長さんから丁寧な説明も受ける事もできました。日頃の仕事で得られない貴重な経験をし、また、歴史に残る御仕事をされている方々との交流でこれほど薬師寺を身近に、そして悠久のロマンを感じた事はありませんでした。また、既に復元完了の西塔も特別に開けて、中を見せていただきました。

最後に平山郁夫画伯の描かれた西方浄土壁画は、行きのバスで説明していただいた高橋さんの会社の特注の壁材を使い、今年はエアコンをかけずに湿度調整を試みているという壁画殿の中にあり、色使いと言い、かつて想像していた世界に辿り着いたかの様にさすがに圧巻でした。とても良い目の保養をする事ができました。そして今回の見学会で知ったことの中でもっとも印象的だったのが、薬師寺の前に<不東>と言う文字が掲げられていますが、これは三蔵法師が西の都に法典をもらいに行くことと決意を固めた時に、決して事が成就するまでは東にある故郷には戻るまい、と言ったあの高僧の心の誓いであったという意味を知り、今まで何気なく眺めていた文字に改めて感動を覚えました。

今回、個人で参加した時には経験できない事や薬師寺を裏で支えている方々とお会いする事ができ、日本古来の伝統・文化を守ってく事の尊さ、大切さを知った様な気がします。(西村 憲絵)



礼堂



薬師寺印



■ 樹木のお話

◆ 緑化設備計画

—国土交通省手引き抜粋—

○ 空気の浄化に貢献します！

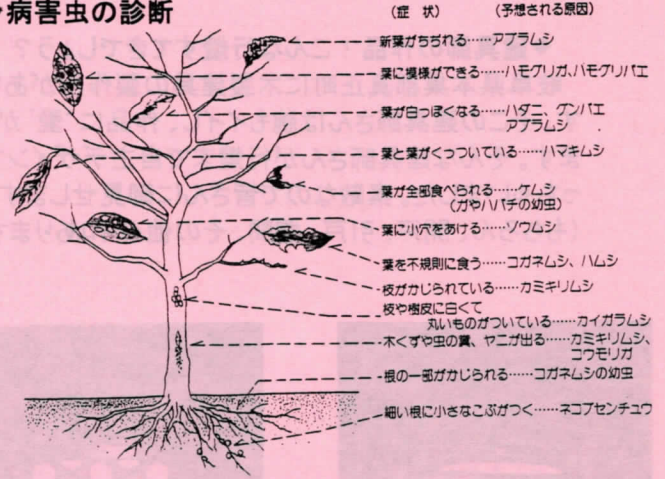
都市の大気は自動車からの排気ガスや住宅・オフィスの冷暖房などで汚染されており、各種の対策にもかかわらず深刻化しているのが現状です。こうした大気汚染の浄化に大きな役割を果たすのが建築物の緑化を含む都市の緑です。緑による空気の浄化効果についての定量的データは以下の通りです。

- ・CO<sub>2</sub>、NO<sub>2</sub>、SO<sub>2</sub>の吸収
- ・その他の大気汚染物質の浄化  
(粉塵の捕捉、O<sub>3</sub>吸収、重金属吸収)

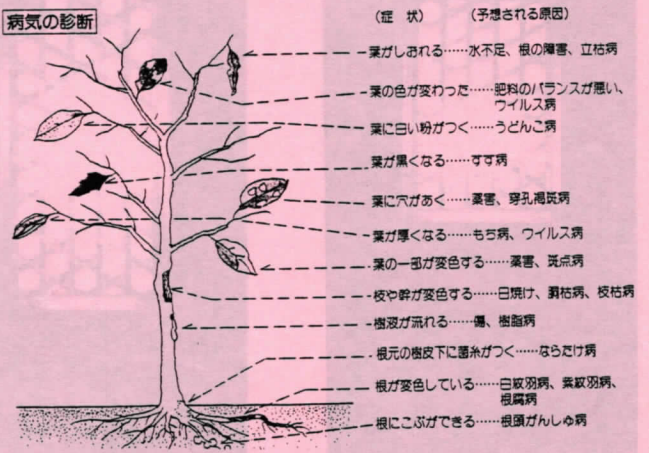
建設省土木研究所(現国土交通省国土技術政策総合研究所)の実験結果は、樹高4mの樹木が1年間に吸収・固定する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の量は平均11.5kgであるとされ、大人1人が1年間に排泄する二酸化炭素の量は約60kgとすると、4mの樹木が5~6本植えれば、1人分の二酸化炭素は処理できます。

また、窒素酸化物(NO<sub>2</sub>)の場合は、樹高4mの樹木が1年間に吸収、固定する量は平均108gです。日本製の自家用車が1km走るごとに平均0.25gの窒素酸化物を排出するとした場合、4mの樹木1本432km走った分の窒素酸化物を処理できることになります。

◆ 病害虫の診断



■ 病気の診断



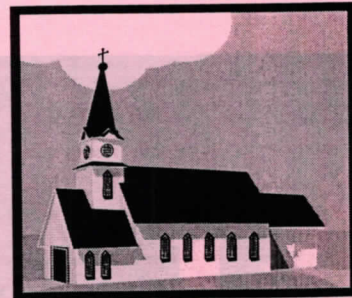
■ 建築ひとくちメモ

◆ ハウスアダプティーション、「ニーズアセスメント」について

支援が必要な障害を持つ対象者が、社会生活上どのような問題があるのか診断した後、支援の具体的な目標を定めて支援の為の計画を、作りそれを実行する事になる。

社会生活上の問題があるかどうかを診断する事をケアマネジメントでは「ニーズアセスメント」あるいは「アセスメント」といっている。

- ① 入口(訪問調査開始)
- ② アセスメント
- ③ ケース目標の設定とケア計画の作成
- ④ ケア計画の実施(サービス提供)
- ⑤ フォローアップ
- ⑥ 再アセスメント
- ⑦ 終結



ケアマネージメントには以上左の7段階があり、そのプロセスにおける②の段階がニーズアセスメント【訳: 支援が必要なニーズの「評価」「査定」「見立て」】である。

在宅介護を考えるハウスアダプティーション用語集抜粋  
／ 財団法人住宅総合研究財団



■ 雑談

◆ 建具師の作品！こんな行燈すてきでしょう？

岐阜県本巣郡真正町に木製建具の製作所があります。そこの建具師さんは腕もイイし、作品に‘愛’があります。そんな建具師さんが行燈まで自主デザインで作っちゃいました。素敵なので皆さんに御見せします！（もちろん、開戸、引戸、欄間、その他いろいろあります）

◆ 美味しいお店の話

私が皆さんにお勧めしたいのは‘具u具u亭別館’【別館なので本館ともう一軒あるのですが、私は岐阜市内、金（こがね）公園の東側にある別館派です。】というお店です。

和風洋風アジア風ともはつきりしないのですが料理の盛り付けがとても独特で、花びらを散らしたみたい綺麗です。何を食べようか悩んだときはお店の人に聞いて下さい。ここのスタッフも美味しい（サービスがイイ！）と思います。（しかも英語が話せる！！）

おすすめの席はカウンターです。なかなかいい景色です。住宅用とは違い、とても大きいオーダーっぽいやキッチンですよ。そこから厨房の向かって右の天井近くを見ると、小さな観音様の木像があるのです。内装全体は薄暗い店内はコンクリート剥き出し 天井の配管を並べた竹で隠しています。こんな見せ方もカッコイイです。壁に貼ってあるすごい字のメニューも（お品書きと言った方がいいかも）内装のうちなのでしょいか？これまた良いですよ。

7時以降は混みます。早めがお薦めです。（S.H.）

◆ 岐阜市都市景観賞受賞作のレストラン

長良の雄総にある右岸堤防沿いのレストラン「サンドミニーク」に行ってきました。堤防沿いから曲線の屋根がよく見えます。建物の中は吹き抜けに螺旋階段があり堤防からの光がいっぱい入ってきます。優しい色調でまとめてありますが、窓の枠や天井の梁 階段の金属部分の黒色が全体を引き締めています。外観のしっくいがとてもやさしい色で波模様でした。（S.H.）



■ 編集後記

このお便りが皆さんへの情報提供の一助となり、そしてまた、次回には皆さんから多くの投稿がいただけるという双方向の場になっていけばと考えます。

今回の編集担当は立川泰子、西村憲絵、林 幸代及び委員長の 4 名です。次回には貴女のご参加もお待ちしております。

なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町 1 番地 岐阜総合庁舎 3 階

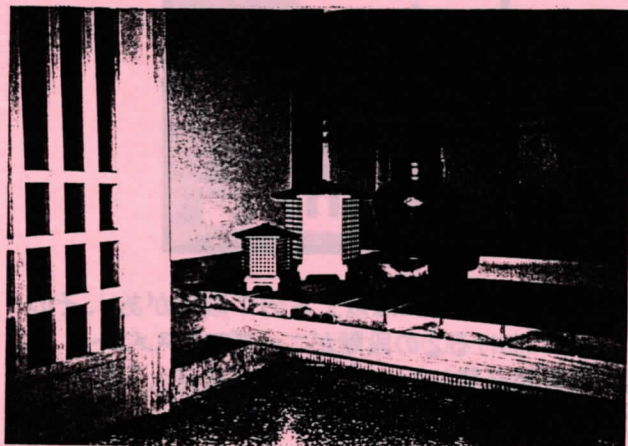
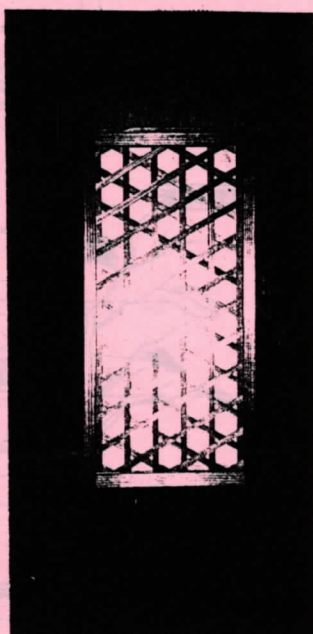
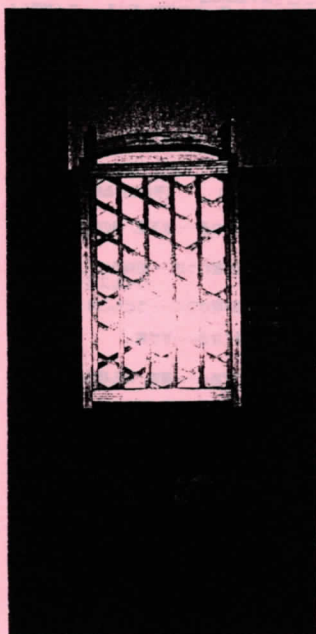
TEL 058-266-5786

FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

[kensi578@juno.ocn.ne.jp](mailto:kensi578@juno.ocn.ne.jp)

※女性委員会担当まで宜しくお願い致します。



お問合せ：箕浦建具店 Tel・FAX(058)323-8653